

視察報告

1. 美晴幼稚園	1
2. 恵庭幼稚園	7
3. お茶の水女子大学附属幼稚園	14
4. 中央区立豊海幼稚園	22
5. 6. 港北幼稚園・ゆうゆうのもり幼保園	28, 34
7. せんりひじり幼稚園	45
8. あけぼの幼稚園	52
9. 認定こども園 Kids まゆみ	58
10. はまようちえん	65
11. 認定こども園さざなみの森	72
12. 福岡教育大学附属幼稚園	81

※ 資料に記載している事項は、現在確認中あるいは調整中の事項を含むため、今後、修正等を行う可能性がある。

1 美晴幼稚園 (北海道札幌市)



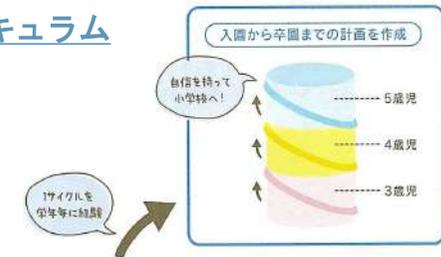
学級編成

3クラス (3～5歳児の異年齢構成) 各30名 計90名 (定員)

活動に応じ学齢グループ編成

0～2歳児保育 保育園が近接 定員19名

カリキュラム

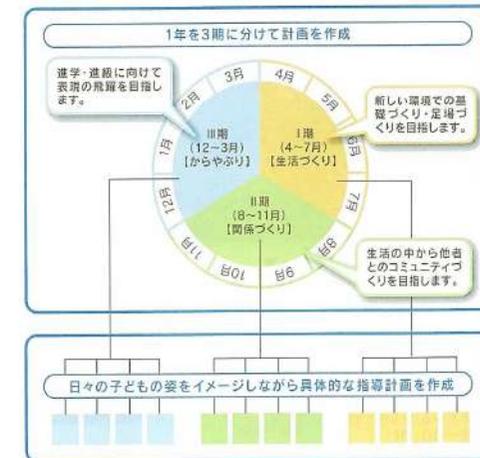


保育目標

多様な子ども集団 直接体験と情動体験 可塑性のある保育

主な特徴

- ・ 各学年を1サイクルとした、らせん状に構成されたカリキュラム
- ・ インクルーシブ教育の推進
- ・ 豊かな自然環境の中での遊び



施設概要

美晴幼稚園

昭和39年築 平成7年改築
RC造2階建て 延べ677㎡

こぐまの森プレイホールガリバー

平成15年築
RC造2階建て 延べ230㎡

こぐまの森プレイガーデン

3000坪の傾斜地を含む雑木林の敷地
プレイホールガリバーが立地

本園での活動の他に、プレイホールガリバーや
プレイガーデンにおいて、四季を通じて自然との
関わりを持てる環境をつくっている。



美晴幼稚園



プレイホールガリバー

施設の特徴(プレイホールガリバー・プレイガーデン)

○インクルーシブ教育に対応する施設の在り方

○幼児の主体的な活動を促すための屋外環境



▲プレイホールガリバー
森に溶け込むように両面をガラス張りとし、内部は木質化している



▲プレイホールガリバー裏手の雑木林



▲障害の有無に関わらず、豊かな自然環境での遊びを通して、危険を回避する力を身につけていく



▲こぢんまりとした2階部分
メリハリのきいた空間により多様な使い方が可能となっている



▲プレイガーデンの一部にある菜園では、生活の一部として四季や自然を体験できる



▲遊び方の決まっていない遊具では子供が自ら遊びを考え、学んでいく

施設の特徴(プレイホールガリバー・プレイガーデン)

- 家庭や地域との連携・協働を促す施設
- 教育活動を支えるための職員スペースの在り方



▲プレイホールガリバー
演奏会を行うなどの地域との連携にも対応できる



▲プレイガーデン
子供の日常的な活動だけでなく、様々な人との交流の場となる



▲自作の遊具で遊ぶ子供
この遊具は卒業生や保護者によるもの



▲普段は床下に収納されているテーブル
可変性のある家具は、空間の使い方に幅を持たせる



▲ガリバーに近接する保育園内の事務スペース
職員や保護者が集える

委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・敷地内に十分な園庭が確保出来ない事から2km程離れた場所に子供達が自然に沢山触れたり、身体を動かす事の出来る場所を確保している。
- ・子供達の過剰な安全性を気にするあまり、多様な経験が出来なくなる事が多い時代の中で、小さな怪我をする事も成長へ繋がるという信念のもと、様々な遊び場が提供されている。
- ・既成遊具は無く、全て手作りの物が子供達に提供されていた。
- ・こぐまの森が、まさに自然との触れ合いの場、自分たちで遊びを考え出す場となっている。
- ・畑、花壇、実のなる木、がけなどが多様な体験を誘発する。固定遊具はないので、自分たちで工夫して遊ぶことになる。足に装具を付けた特別支援の子どもが、教師の援助を受けながら、急こう配のがけを登ろうとしているのが印象的だった。特別な訓練ではなく、子どもがしたいと思ってチャレンジしたことが、結果として身体能力を高めることに役立っている。
- ・0～2歳の小規模保育園もあり、普段は0～6歳の子どもが交流できる。また、卒園生プログラムがあると小学生の子どもも活動する拠点となる。小学生の活動を引き継いで、幼稚園の子どもが活動を展開するなどしていた。幼小のつながりを大事にしている。
- ・ガリバーハウスが秀逸で、建築には素人だが、大変面白い構造であると感じた。ここの机は、掘りごたつ式で、必要なときに必要な数だけ机を出すことができる。たたんでしまえば、広くホールのようにも使える。また、様々な地域の行事、コンサートなどにも使われていて、集会所(カフェ)も作られている。地域とのつながりが形になっている。

委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

・幼児教育施設においては、子どもたちと直接かかわる時間と同等に、教職員が子どもたちの指導についてコミュニケーションをしっかりと取る時間と空間が必要である。そのための時間と空間の重要性があまり理解されず、子どもたちをただ預かるだけの空間という発想で施設を作っている事例が少なからず見受けられる。北海道の2園では、職員室や休憩スペースなど子どもたちの前で教職員が最高のパフォーマンスをするために必要な休息やリフレッシュをする空間、教職員間でよりよい連携をとって指導をするための幼児理解や指導方法などの打ち合わせをする空間づくりと設備について環境を整えることに力を入れていることが、今後の施設整備に対して大きな示唆を与えている。ぜひ、参考にしたい環境である。

・2園ともある程度自然環境に恵まれているものの、子どもたちの育ちを考えてよりよい環境を求め、自然を取り入れたたり、種をまいて育てたりする取り組みを続けて園の自然環境を豊かに変えている。規模の大小はあっても、どの園でも発想としては大事にしたいことである。

・ここに行けば、自由に絵を描いたり、物を作ったりできるアトリエや工房のような空間があることは、子どもたちだけでなく、教師にとっても想像力や創作意欲を高め、心が揺さぶられる体験をしたとき、すぐにそれを表現する行動につながることに効果があると思われる。

・保護者が送り迎えの際にちょっとくつろいだり、教職員や保護者同士で話したりできる空間があり、これは子育ての支援にとって非常に重要な意味をもつ施設整備である。通園にかかわる安全を考えると、自転車やベビーカー置き場などの空間が確保できないなど、非常に危険な園が多いと思われる。各園において事情が異なるものの、安全に関してはある程度の広い空間が求められる。

2 恵庭幼稚園（北海道恵庭市）



教育プログラム

遊（よく遊ぶ子は、よく育つ） 食（食を通して学ぶ“生活”と“文化”） 智（知と智“学びに向かう力”）

教育カリキュラム

教育内容	遊ぶ	学ぶ	育つ
	3歳(年少)	4歳(年中)	5歳(年長)
教育内容	自立と自我の芽生えを培うために遊び込む	生活と想像の基礎基本を繰り返し学ぶ	自分たちで生活を創り、豊かな表現力を培う
活動スタイル	遊び込み(自由遊び)	遊びと習得(設定保育)	自ら動く(アクティブラーニング)
学級編成	17～18人(4クラス)	23～24人(3クラス)	17～18人(4クラス)
教員体制	チーム保育(学年8人)	担任制(1クラス2人)	チーム保育(学年5人)
教員配置	園児9人につき1人	園児12人につき1人	園児15人につき1人

施設概要

昭和60年築 平成21年改築
RC造2階建て 延べ1645.16㎡

そのほか、施設の整備費を徴収し、毎年
少しずつ改修を行っている



施設の特徴

- 思考力や判断力、表現力、多様性、持続力、探究心等を育てるための屋内環境の在り方
- 将来の変化に対応する施設整備の在り方



▲毎日のスケジュールはボードに書き出し、
子供は自分でそれを見て自主的に行動する



▲保育室に設けられた学習コーナー



▲馬蹄型に並べた可動式の椅子兼棚は用途に
合わせて様々な使い方が可能



▲壁に課題とやり方を記載した紙を貼り、興
味を持った子供は自ら読み取り学習できる



▲大人用便座と子供用便座両方を設置



▲保育室の床に収納できるテーブルを設け、
用途にあわせて活用している

施設の特徴

- 家庭や地域等との連携・協働を促す施設整備の在り方
- 教育活動を支えるための職員スペースの在り方



▲保護者も集まれる玄関脇の暖炉を囲むミルルーム



▲電子黒板を活用した学習は、教員の仕事の省力化にも役立った



▲園内に設けられた休憩スペース



▲広々とした職員室はガラスの扉で中の様子がよくわかる

施設の特徴

○幼児の主体的な活動を促すための屋外環境の在り方



▲子供が自ら土をいじって道を作り、遊びを創造する園庭



▲夏の間、園庭に重機で穴を掘り、ビニールシートを敷いてプールにし、秋が来たら埋め戻す



▲園庭の段差や石も子供の遊具であり、遊び場でもある



▲植物のつるも子供にとっては遊具と同じ



▲遊具にははしごがなく、縄や板を伝って上ることで自然に体力をつけていく



▲田んぼや畑でとれたものを食べることで四季や生活に根ざした“食”を経験できる

委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

・教育課程で示されているように「3歳児は徹底して遊びこむために保育室を特定しない」「4歳児はクラスとしてのまとまりを」「5歳児は、クラスはあるが、それを超えて小グループでの活動が出来るように」室内及びトイレの設えを子どもの発達状態によって変えている。これこそ、教育理念・方針に沿った園舎計画である。事務室も外から全部見えて大人が仕事をしているのがわかる、トイレも廊下にオープン、広い和室、掘りごたつ式収納可能な机、熱量が目に見える薪ストーブ、普段から使用できる非常用スロープ、U字の移動可能な収納も兼ねる3段の組み立て式座席、電子黒板（教員に持たせるipadと繋げる、教員の仕事の省力化も）など、理念に裏打ちされた創意工夫の見られる空間であった。

・園庭は、木登りのできる樹木、花の咲く木、果樹、そして落葉樹・常緑樹など変化に富む植栽があり、常設のプール（水がない時は、カプラやレゴの場所にも）、夏場には園庭を掘り起こして創る大きなプール、花壇・畑・水田、小川もあり、飲料にもなる井戸の水も十分に使える。子どもたちが自然に関わって自ら探求できる環境がある。また、36の基本動作がまんべんなく体験できるような仕掛けがあちこちに施されており、子どもが知らず知らずのうちに身体を動かすことができるようになっている。これらは、園長や教員たちが、常日頃、研究的に保育実践を重ねているからこそできることだと思う。

・訪問時には、教員の休憩室が作られているところであった。保育所では職員の休憩室を見かけることがあるが、幼稚園ではなかなか見られないことであり、今後、幼稚園教諭の働き方を変え、長く勤務して経験を積み、研究的に保育を振り返り、質の高い教育が出来る教員を育てていくことに繋がると考えられる。

・就園前の乳幼児と保護者向けの子育て支援と学童保育も兼ね備えた、0歳から10歳までの子どもの育ちを保証するシステムになっていることは特記すべきである。

・保護者との連携(特に父親)も活発である。

・園庭は季節毎に重機で掘り起こして池を造成するなど、絶えずリノベーションしながら整備している。

・避難器具やテラスを有効に使いあそび場を構成している。

委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・井戸と井水を園庭全体に活用し、植栽を豊かにし水田や動物の飼育にいかしている。
- ・2歳児からの学齢別の保育を基本とし、3歳児は保育室を固定せず3室を全体で使用している。4歳児は意識的に保育室を固定化して使用している。5歳児は保育室を配置しつつ、和室や家具を工夫してコロセウム式の保育環境を実現している。
- ・玄関横に職員室を配置し、全面ガラス張りで職員が仕事している様子を見られるように設え、広い玄関ホールや廊下の壁面を利用し、保育の様子を保護者や来園者に伝える掲示を行っている。
- ・玄関ホールにまきストーブを設置しコミュニティースペースとしている。
- ・夏休みを利用し職員の休憩室を整備する改修工事をおこなっていた。
- ・園長が就任した頃は園庭に樹木が一本も無かったとの話だが、そこから木を植えて少しずつ緑豊かな環境にしてきた。
- ・夏場には園庭に重機で大きな穴を掘り、ブルーシートを張り、水を張る事で子供達が思いきり水遊びができる様に工夫をしたり、井戸水を手押しポンプを使って汲み上げ、それを水遊びに使ったりして、子供達が遊びの中から知識や経験を得て、協調性を得たり出来る様になっていた。
- ・保護者が送り迎えの際にちょっとくつろいだり、教職員や保護者同士で話したりできる空間があり、これは子育ての支援にとって非常に重要な意味をもつ施設整備である。通園にかかわる安全を考えると、自転車やベビーカー置き場などの空間が確保できないなど、非常に危険な園が多いと思われる。各園において事情が異なるものの、安全に関してはある程度の広い空間が求められる。
- ・トイレがきれいで、保育室や職員室からよく見えるオープンな空間である。年齢に応じてその誂えも考えられており、子どもたちの自立を促しつつ、教師側の援助もしやすい配慮がされている。

3 お茶の水女子大学附属幼稚園(東京都文京区)



学級編成 (2017年4月 在園児数)

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
—	—	—	2クラス 40名	2クラス 58名	2クラス 58名	6クラス 156名

職員

園長	副園長	教諭	養護教諭、 任期付教諭	非常勤講師	事務 補佐員	用務員	学校医 (4校園共通)	学校歯科医 (4校園共通)
1名	1名	6名	各1名	3名	1名	2名	3名	1名

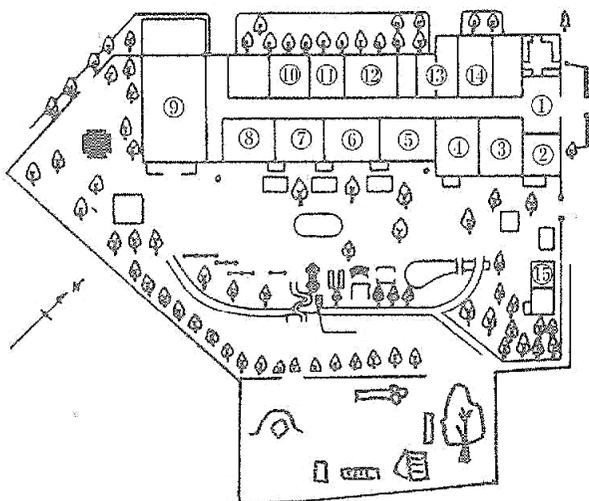
目的

- お茶の水女子大学附属幼稚園は入園した幼児を保育して、心身の発達を助けることを目的とします。とくに、つぎのような子どもに育てようとしています。
 - からだがじょうぶで、元気がよい。
 - 自分のことは自分でする。
 - 友だちと仲よく遊ぶ。
 - ものごとにいっきいきした興味をもつ。
 - 思ったことははっきり話し、人の話をよく聞く。
 - 創意工夫したことを楽しんで表現する。
- 本幼稚園は、お茶の水女子大学の附属として、幼児教育の理論と実際に関する研究をします。
- 本幼稚園は、お茶の水女子大学学生にとっての保育、教育の実習と研究の場でもあります。
- 本幼稚園は、研究や保育の実際を公開して、幼児教育の進歩向上に貢献します。

施設概要

昭和6年築(平成26年全面改修)
RC造1階建 延べ1,244㎡

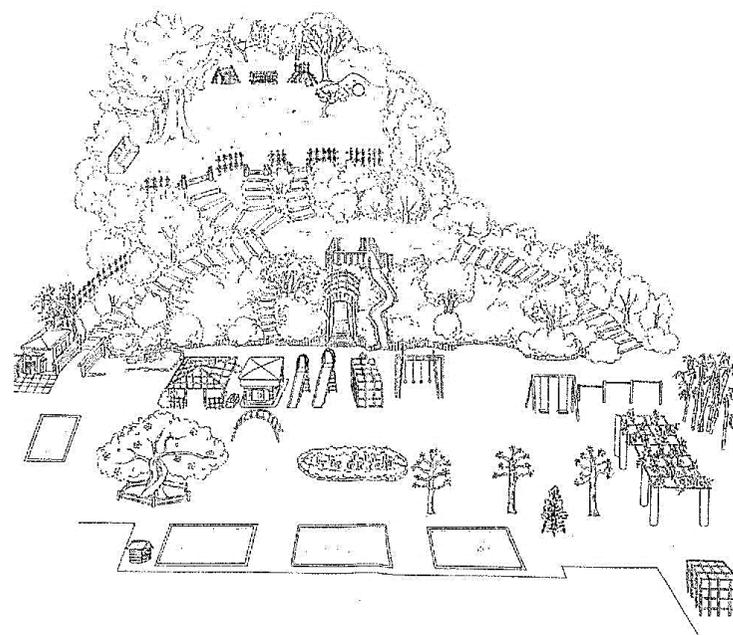
附属幼稚園平面図



- | | | |
|-------|------|-----------|
| ①玄関 | ⑥海の組 | ⑪園長室 |
| ②用務員室 | ⑦林の組 | ⑫職員室 |
| ③森の組 | ⑧池の組 | ⑬手洗所(男・女) |
| ④川の組 | ⑨遊戯室 | ⑭アトリエ |
| ⑤山の組 | ⑩保健室 | ⑮子どものうち |

施設

- 園舎
総建坪 約1,262平方米(約382坪)
保育室(6)・遊戯室・保健室
園長室・職員室・アトリエ
手洗所(男女別・多目的)
用務員室
子どものうち
- 遊園
総面積 約3,300平方米(約1,000坪)



外部・園庭



▲園庭の最上部。奥に見えるのは直径170cmのイチヨウの大木。



▲右の階段と併せて、回遊性を持たせている。



▲バラの家。



▲夏場は水を流して園児達が遊ぶ。



▲砂場。



▲運動会も、この園庭で工夫して開催しているとのこと。



▲すべり台の座面は木製。

内部



▲玄関近辺に配されたコート掛け。



▲各保育室の入口欄間部分には、その組をイメージしたステンドグラスを配している。



▲保育室。家具はなるべく建設当時のものを使い、モノの大切さを教育している。



▲保育室内の流し。人研ぎは建設当時のものを活かして再利用している。



▲遊戯室（多目的室）。手前に見えているのはビニール製のプール。



▲職員室。家具で仕切られた奥のスペースは更衣スペースとしているとのこと。



▲トイレブースも、あえて建設当時のデザインを残している。



▲教材保管庫。整然と整理・整頓がなされている。



▲幅3mの広い廊下も園児の大切な遊びのスペース。お店屋さんごっこが始まったり、異年齢間の交流スペースにもなる。



▲遊戯室ステージ。映写機やステージ専用照明などが配置されている。

委員コメント(基礎情報)

- ・2014年3月大規模復元改修工事完了。
- ・自ら選択し広げる“あそび”を中心に自主・自立を促す保育。
- ・9時から徒歩もしくは、公共交通機関を利用して登園し、自由なあそびをコアに11時～12時頃に昼食、降園前にはクラス毎に集まり、13時半までに学年毎に時差降園する。
- ・延長保育はない。入園検定は抽選を中心とし、応募資格の確認を行っている。
- ・大正初期: 現園舎への移転にあたり、当時の倉橋園長が園舎の計画に携わった。
- ・保育室の中は年齢に応じてコーナーを設けている。廊下も遊び場。
- ・園庭へ行くのは保育室から直接出る(くつも別)。園庭側はたたきがある。
- ・名札はつけない伝統。園内ではエプロン(デザイン等は自由)をつける。
- ・H13より幼小連携を実施。“かかわり合って学ぶ力を育む” この研究後より3歳→4歳でクラス替え、4歳→5歳は替えない。
- ・ホームカミングデー年に1回、同窓生が集まる日を設けている。(上は80才、下は6才まで) 毎年400～600名ほどが来校

委員コメント(基礎情報)

- ・1876(M9)年 開園。1932(S7)年 現園舎に 建物はH20年に登録有形文化財に
- ・方針:名札無し、名前を覚えて 子どもが主体的に行動(過度な安全面への配慮は行わない)
- ・現在地に建設時の園長であり、日本の保育原理の基礎を築いた倉橋惣三のフレーベル原理、児童中心主義の影響を見てとれる。
- ・9:00-9:15 登園 園長・副園長挨拶 その後 うがい 手洗い 部屋に行き園庭で遊び
11:30-12:30 昼食 遊び 13:10- 集まり 絵本読み聞かせ、集中力を養う 13:30終了

委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・現園舎は昭和7年に新築した震災復興建築で躯体は強靱。平面計画は中廊下型でシンプルであるが廊下幅や保育室の面積は広く計画されており、天井も高い（改修復元時に天井や壁の設備配管を見直し、新築当時のおもむきとステンドグラスが一層印象的な存在となっている）。
- ・登園靴・上靴・園庭活動靴の3つを用意し、保育室と園庭の行き来をスムーズにしている。園庭は高低差を生かしつつ、固定遊具や花壇、樹齢がある大木や草原（芝生ではない）で構成された豊かな環境を有し、運動会も園庭を工夫して利用している。
- ・園庭・園舎には死角もあるが、研修や研究を通して、情報共有や保育者の能力を高め、小さな怪我を許容しながら子どもの危険回避能力の涵養を促し安全の確保や保育の充実を図っている。
- ・家具は創設当時から大切に引き継がれ保育や生活の中で使用されている。また、大切にすればかりでなく、家具の特徴をいかし子どもの生活や活動に身近に取り入れられる様に、椅子や机の使用方法を柔軟にする工夫をしている。
- ・流し台は衛生器具を交換しつつ、保存活用している（トイレは全面改修）。暖房器具は改修前から温水循環式のラジエターによる輻射式暖房により熱の刺激や偏りの少ない暖房方式がとられており、現在も継続して採用している。
- ・保護者会の活動が活発で、複数の委員会や保育支援を行っていてPTA室は管理エリア側に確保されている。
- ・通園手段は保護者付き添いの徒歩や交通機関を使用した送迎で、年長は玄関まで、年少年中は保育室までの送りとなり、帰りの引き渡しは玄関にて行っている。玄関やコート室は広く配置され、園舎の環境をいかした送迎方法となっている。
- ・子どもが建物や家具など、本物（質のよい環境）に触れながら生活する経験を大事にしている。

委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・地形を生かし、勾配のある変化に富んだ園庭に恵まれている。
- ・改修時にバリアフリーや扉の安全性を改善した。
- ・古いものも残す（人研ぎ流し、丸いドアノブ、ひねる蛇口など）
- ・行事、もちつきなど、季節の伝統のものを行う。運動会も現在は園庭で行う。
- ・ステンドグラスは子どもたちの映像としての記憶になっているのではないか。光のさし方、色の変化に何かを感じているのではないか？
- ・朝：玄関で園長、副園長が出迎える。担任は保育室（9:00～9:15）
- ・毎週水曜、園内研究会を実施。教員間の情報共有を重視。
- ・外壁はスクラッチタイル張りの平家のコンクリート建築で中廊下式、天井も高く、スケールのにもいわゆる幼稚園らしさはないが、調度品のスケールが子どものスケールに合わせたもので、違和感はなく、天井の高さとともに落ち着きを与える。またステンドグラスの「うみ」「やま」の文様のアートが子どもの感性に働きかける（卒園してから記憶に残っている話を聞いた）。
- ・園庭に直接部屋から出られる。園庭は平坦部は真ん中に花壇があり、その周りを運動会のトラックとして周る。そこから南側に斜面地となり、滑り台など遊具はその斜面を活用して設けられ、斜面の上の広場は自然の草っ原に、樹齢300年（？）ともいわれるイチヨウの大木といった、都会の中でそうめったに触れられない自然環境が残されている点は子どもの自然との触れ合いに適した環境と言える。ただし、現在の保護者たちが、虫に刺され、泥んこになりながらも思いっきり子どもが遊ぶ環境に好んで我が子をおいているとしたら、保護者の理解を十分に得ていることを示す（実際はどうか？）。斜面地を駆けずり回することは体幹を鍛え、身体の成長にもよい。
- ・保護者は入り口ロビー脇の元コート掛けの部屋を待合室として利用する。

4 中央区立豊海幼稚園(東京都中央区)



学級編制

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
—	—	—	4クラス 85名	3クラス 83名	3クラス 76名	10クラス 244名

職員

園長	副園長	主任教諭	教諭	講師	用務主事	園医
1名	1名	1名	9名	11名	2名	4名

教育目標 げんきな子 やさしい子 がんばれる子

今年度の重点目標

重点目標1 心身ともに健康な子どもを育てる。

○新園舎の環境を生かした運動遊び・基本的な生活習慣の確立・諸文化に触れ親しむ体験

重点目標2 好奇心旺盛に遊びや活動に取り組める子どもを育てる。

○植育の推進・試行錯誤や表現の喜びが味わえる経験

重点目標3 人とのかかわりを楽しめる子どもを育てる。

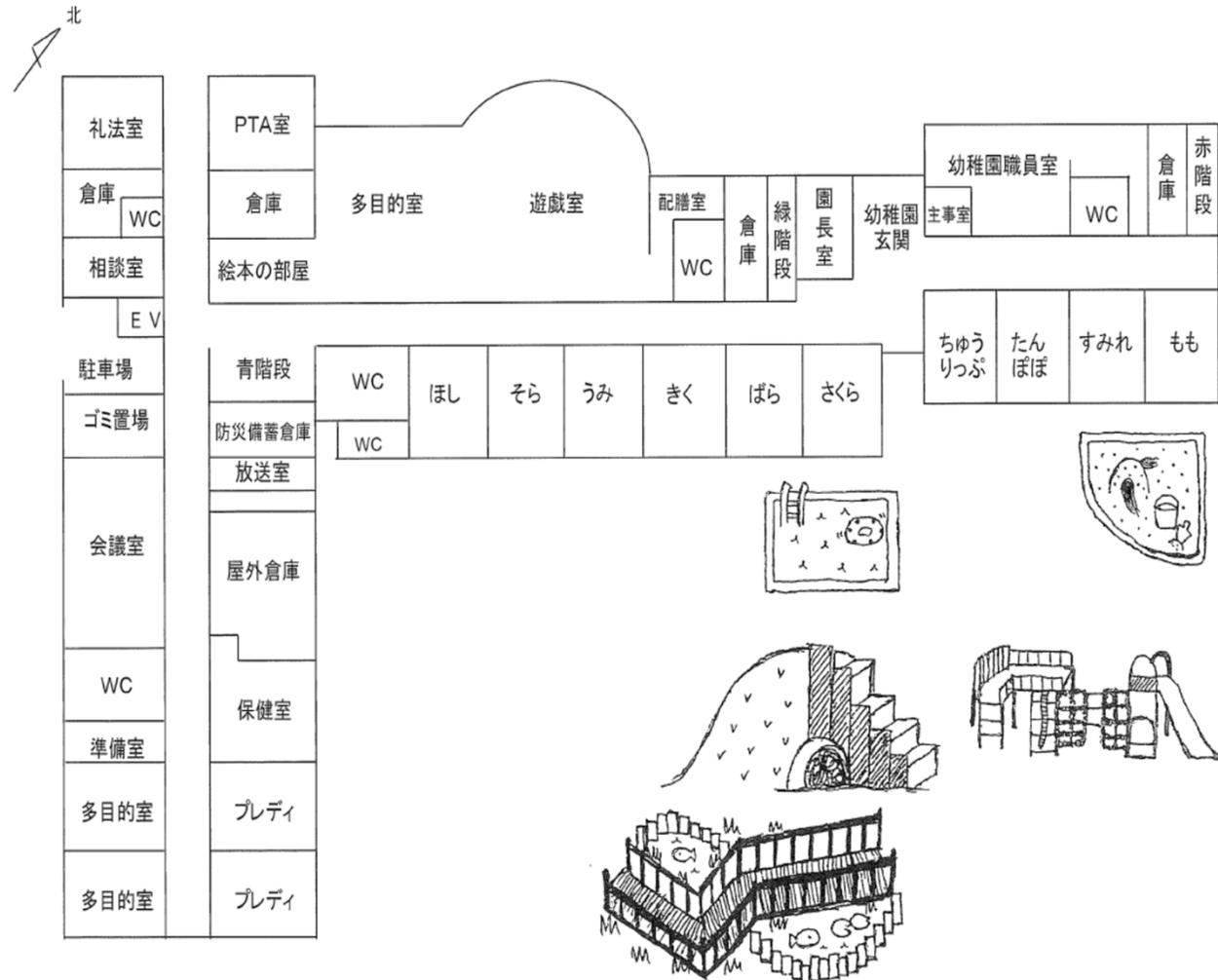
○大規模園の利を生かした活動・異年齢交流・地域や他校種との交流

施設概要

平成28年築

RC造 地上5階地下1階建(幼稚園は1階部分)

延べ14,189.10m²(幼稚園は2,153.14m²)



外部・園庭



▲保育室前の手洗い場



▲幼稚園用プール



▲複合遊具とかまどベンチ



▲手前側の緑ゾーンが幼稚園用の運動場

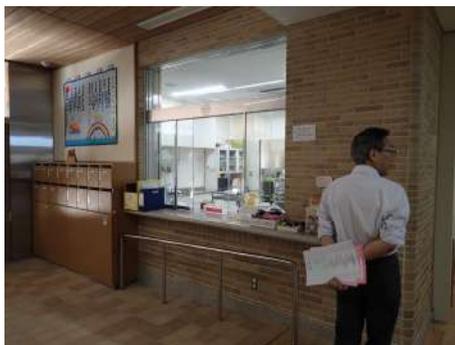


▲校園庭の一角に設けられたプランターでは、
トマトやきゅうりなどを栽培



▲ビオトープ

内部



▲玄関脇の主事室、反対側には園長室を配置



▲廊下幅は3m



▲保育室



▲保育室内の流し



▲絵本の部屋



▲礼法室、熱源はIHを採用



▲トイレ（男女兼用）、奥は幼児用更衣室で職員室とつながっている



▲器具庫



▲職員室、手前の薄緑席は非常勤職員用スペース



▲職員室奥に設けられた保健室



▲一体的に使用できる多目的室と遊戯室、用途に応じて分割可能



▲最上階に配置されたランチルーム

委員コメント(基礎情報)

- ・小学校との複合施設であり2016年に改築工事完了(園児・児童の急増による)。9月1日から教育活動開始。
- ・年少4クラス、年中・長3クラス、計10クラス編成、今年度244名在籍、教育職員27名の都内公立幼稚園一の規模。
- ・生涯における人間形成の基礎や心豊かにたくましく生きる力を養う。
- ・9時登園し自由あそびをコアに10時半頃片づけ後クラス毎の活動に。11時半から12時頃に昼食準備をし、昼食後自由あそびとクラス毎の全体活動の後、13:40~14:00に、学年毎に時差降園。
- ・自園では預かり保育を実施せず(対応可能)。防災拠点施設としての位置付けを含め、地域や保護者との交流に力を入れている。

委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・中廊下（約130m）の1階に10室の保育室と絵本の部屋、礼法室（和室茶室）、多目的室、遊戯室を配置している。教材室は4室確保され、保育活動の環境整備に努めている。
- ・絵本の部屋や多目的室を合理的配慮を要する園児の保育や支援にいかしている。
- ・保育室は余裕をもった面積を確保し、多目的室と遊戯室の展開性に配慮し、可動式のステージの高さを巧技台の高さに合わせる工夫など、細部まで配慮がなされている。
- ・改築時に前校舎（園舎）の反省をいかし、幼稚園と小学校スペースのゾーン分けを図りながら、児童間交流が有機的に機能する様配慮された計画となっている。特に屋外環境は園児や保護者の動線から明確にゾーン分けされており、植栽や固定遊具、菜園などは教育・保育活動にいかされるものとなっている。
- ・上部階3m程のバルコニーが1階幼稚園部分の庇となっており、雨天時の活動や保護者の送迎時に有効にいかされている。
- ・3歳児のトイレは十分なスペースとベンチが用意され、安心して排泄できる環境となっている。
- ・小学校との会議室の共有や管理職の毎朝のミーティング、職員玄関（小学校職員室前）の共有を通して日常から連絡・交流が円滑になされ、児童間交流とあわせ、幼小接続を充実させる環境が整っている。
- ・保護者の動線や保育室への視認性などに配慮されている。